

第21号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所  
 霊亀山 九島禅院  
 〒550 大阪市西区本田3丁目4-18  
 TEL 06(583)2725 FAX 06(583)0908  
 発行人 住 職 奥田啓知(智證)



大阪にオリンピックを！  
 九条に中華街を！  
 二十一世紀まであと四年！

# 教師に制服必要か？

## 中身が大事だよ

教師の制服が話題となつてい  
 ます。大阪・羽曳野市で市長さ  
 んが、教師の服装のだらしないさ  
 が教育荒廃の元凶の一つとして  
 教師に制服を強制させることに  
 なりました。賛否両論の声を尻  
 目に市議会で一千万円もの予算  
 もつき、いよいよ実施されるこ  
 とになったそうです。

制服の自由化の動きはあるも  
 の、多くの学校では生徒には制  
 服の着用が義務づけられていま  
 す。規律と秩序の維持には、制  
 服用が効果的なこともあり、  
 現在、アメリカ合衆国をはじめ  
 数カ国が公立学校での制服の着  
 用を検討しているとのことだ  
 す。いじめ問題・登校拒否など教  
 育の荒廃の原因は、管理と競争  
 の支配する教育にあり、ルソー  
 のいうような、人間創造の教育  
 とは程遠い教育現場も大きな原  
 因の一つといえるでしょう。  
 教育は研修とはちがいます。  
 教育は、目の前の利益や業績を  
 あげるためにするものではありません。  
 子供たちの将来を理由  
 に現在の幸福を犠牲にするもの

であってはなりません。  
 小学生の子供には、小学生の  
 ときだけのもっている感覚があ  
 ります。少年期から青年期に入  
 る中学生時代には、その時期の  
 人間だけがもっているすばらし  
 い感受性があります。高校生、  
 大学生には二度とこない青春時  
 代があります。それぞれを大事  
 に生きていくことが必要ではな  
 いでしょうか。現在を将来の手  
 段とみなすような考え方は、人  
 のいのちを打算におきかえるも  
 ので、宗教心のない考え方だと  
 思います。

室町時代の禅僧の一休禅師に  
 こんな逸話があります。  
 ある時、一休さんは京都の富  
 家の法事の導師を頼まれる。茶  
 目っ気を発揮した一休さん、ど  
 こからか汚れた着物を見つけて  
 きて、手足にはススをつけ、菰  
 (こも)をかぶり、乞食の姿で  
 その富家を訪ねる。そして、玄  
 関から堂々が入ろうとする。  
 びっくりした家の主人は下男  
 に命じて叩き出させる。さんざ  
 ん棒で叩かれた一休さん、今度

は、金襴の袈裟に身を包み、堂  
 々と門前に立った。「どうぞ、  
 どうぞ」と主人は一休さんを迎  
 え入れようとする。すると一休  
 さん「愚僧はここで結構です」  
 と、玄関から動こうとしない。  
 「ここは下郎の座るところでござ  
 います。どうぞ奥へ」と主人  
 は言う。「では、わしのこの袈  
 裟だけを奥へ連れて行って下さ  
 れ。中身のわしは、先ほど、こ  
 こから追い返されたんじゃから  
 な。」と皮肉を言ったそう  
 だ。

私たちは、人間を外見でもつ  
 て判断してしまいます。教師に  
 制服を強要したところで、問題  
 の解決にはつながりません。第  
 一、子供たちとの触れ合いの多  
 い小学校の先生に背広姿はふさ  
 わしいとはいえません。外見で  
 判断せず、教師がのびのびと人  
 間創造の教育に打ち込める環境  
 を整えることこそ、必要ではな  
 いでしょうか。



